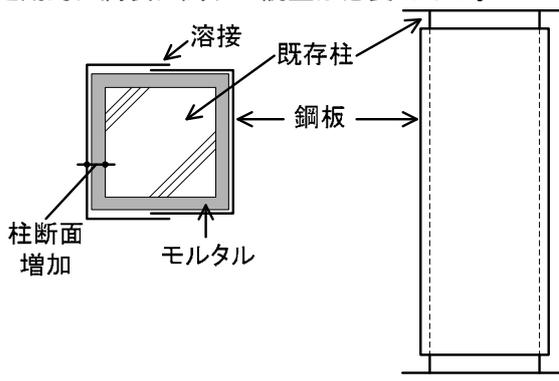


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 13102102

性能分野	耐震性
大分類	耐震性の向上
中分類	靱性型の補強 [ 柱の補強 ]
技術の名称	柱の鋼板巻き立て補強
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の RC 構造躯体に鋼板を巻き付け、柱のコンクリート面と鋼板の隙間に無収縮モルタル等を充填し、構造躯体の靱性を向上させる工法。</li> <li>・ 鋼板がコンクリートを拘束するため、軸耐力の向上も期待できる。</li> <li>・ 壁の取り付いていない柱に用いられることが多い。</li> <li>・ 雨掛りの箇所は定期的に腐食に関する調査が必要である。</li> </ul>   <p>(仕上げ材の撤去後)</p>  <p>(鋼板巻き立て後) (写真出典：マンション耐震化マニュアル)</p> <p>手順：</p> <pre>         graph TD             A[既存仕上げ撤去] --&gt; B[既存躯体表面目荒し]             B --&gt; C[ひび割れ補修*1]             C --&gt; D[補強鋼板建込み]             D --&gt; E[鋼板と既存躯体の間にモルタル充填]             E --&gt; F[仕上げ]             </pre> <p>*1：既存躯体に構造ひび割れがある場合、樹脂注入工法によりひび割れを補修する</p> <p>工期は、仕上げを除き柱 1 本 2 週間程度。</p> <p>耐震改修に利用される工法と適用される部位は建物の現状を踏まえて耐震改修を設計する中で決められる。</p>

